

TOPICS

～ 「おち辰哉」の活動内容をご紹介 ～
活動速報はホームページをご覧ください。



東海村文化祭2022 (11/3)

今年で50回記念となった文化祭。開会式典のテープカットに参加し、50年にわたり本村の文化や芸術を繋いできた歴史の重みを感じました。

また、式典終了後は姉妹都市交流協議会の展示ブースにて、説明員として対応しました。



第26回東海I～MOのまつり (11/23)

3年ぶりの開催となりましたが、天候はあいにくの雨模様。

文化センターのホールで行われた開会式典において挨拶をさせて頂きましたが、屋外の会場では傘を片手に多くの来場者が足を運んでおり、大盛況でした。



編集後記

昨年2月から始まったロシアによるウクライナへの武力侵攻。衝撃的な映像やニュースがメディアを通じて日々配信されるなか、遠く離れた日本でも巡り巡って電気代の高騰など私たちの生活に直結することを痛感した。

一方、2022FIFAワールドカップでは、同じように国と国との戦いではあるものの、国際的なルールが適用され、最近ではIT技術を駆使した厳格な判定が導入されている。ワールドカップは、歴史や文化、国民性が各国代表のプレースタイルや戦術の選択等にも反映され、応援する側の愛国心を奮い立たせるようにも感じる。

昨今、日本は防衛費を増額しなければならぬ状況下にあるようだが、サッカーのように国際秩序によって成り立つ平和な暮らしを願いたい。

(し)

VOICE

～ リレーで綴る村民の声 ～



結婚を機に5年前に東海村へ引越してきました。スーパーや飲食店、病院に至るまで生活に必要な施設がすべて整っており、子どもの医療費だけでなく、子ども向けの講座など数多くのイベントも無料で開催されていて、教育に熱心なところも決め手の一つとなりました。

また、「歴史と未来の交流館」は私たち家族のお気に入りの場所となっています。美味しい珈琲を楽しみながら子どもたちの駆け回る姿を眺めていると、東海村に移り住んで本当に良かったと心から感じるができます。できれば、冬のイルミネーションも続けていただきたいです。

茨城県の住みこちランキングで上位に名が上っている東海村ですが、おち議員には誰もが暮らしやすく「住み続けたい」と思えるようなまちづくりをお願いします。

吉田 拓磨さん(舟石川中丸区在住)

年賀状の送付は、公職選挙法により規制されていますので本紙にて、新年のご挨拶とさせていただきます。

わかば通信

おち辰哉

東海村議会議員 議会報告

第60号
令和5年1月発行

発行人：おち辰哉後援会
日立市多賀町4-1-19
(日立製作所労働組合 日立国分支部内)
TEL 0294(33)0615
FAX 0294(38)5522

日頃のご支援に感謝申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの蔓延がやや落ち着いた状況となりました。そこで、感染症対策と地域経済の活性化との両立を図るべく、村全体の大きなイベントやそれぞれの地域での行事などが再開されるなど、少しずつ以前のよう賑わいの風景が戻ってきた1年でした。

まだまだ油断はできませんが、迎えた新年が笑顔と活気に満ち溢れた安寧な1年になることを、心よりご祈念申し上げます。

越智辰哉



NEWS

～ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ～



さとふる

めざせ1億円。ふるさと納税が堅調

東海村では、「愛着を感じるふるさとへの寄付」や「特産品PR」など、郷土愛の醸成と東海村の魅力を全国に発信することを目的とし、令和元年10月から返礼品をとまなう「ふるさと納税」を開始しました。

制度開始以来、寄付件数や寄付金額が堅調に増加しており、寄せられた寄付金は、子育て環境の整備に関する事業や、教育・文化およびスポーツの振興に関する事業など、寄付者が指定した事業に活用しています。

返礼品のなかでも「ほしいも」が人気であり、最近ではテレビ番組で取り上げられたことや、返礼品に対応する事業者が増えたことなどにより、昨年度の寄付総額(約7,800万円)を大きく上回る予想となっています。

役場担当課では、今年度末の寄付金総額の目標を「1億円」とし、引き続き返礼品の拡充に取り組んでいます。



▲ふるさと納税サイト「さとふる」より引用

社会福祉施設への支援金 などの補正予算を可決

令和4年12月定例会を、12月1日から20日までの会期で開きました。
今議会では、医療機関等に対する物価高騰対策緊急支援事業等の補正予算ほか全16件の議案が提出されましたが、慎重審議の結果、すべて原案のとおり可決しました。

CHECK! 東海村独自の支援策を矢継ぎ早に

現在、原油価格や様々な物価の高騰により、住民生活および事業者の経済活動に大きな影響が出ています。そこで、11月7日に臨時議会を開き、村独自の支援策として高校3年生以下の児童を持つ子育て世帯に対する給付金や、農業生産者に対する補助金に関する補正予算を可決しました。



また、12月議会では、病院や介護施設など社会福祉施設を運営する事業者に対して、緊急支援金を交付する補正予算を可決し、村独自の支援策を矢継ぎ早に展開しています。



一方で、こうした事業の下支えとなる国からの臨時交付金には限度があり、また物価高騰の状況は今後も継続することが想定されることから、中長期的な視点での対応も必要と考えます。

県議選 2022 期日前投票所を増設

12月2日告示、12月11日投開票の日程で施行された茨城県議会議員選挙が終了しました。

東海村選挙区では、東海第二原子力発電所の必要性を主張する現職の「しもじ健次郎」氏が4期目の当選を果たしましたが、投票率は35.1%であり、県内全体でも35.84%と低調な結果でした。

こうした状況のなか、期日前投票所をアイヴィル1階の正面ロビーに増設し、試験的運用を実施しました。結果として、期日前投票者総数4,657名のうち804名がこの会場で期日前投票を実施したとのことで、一定のニーズがあることが分かりました。



一般質問 気になる話題

一般質問における議員と村執行部とのやり取りにおいて、特筆すべき話題について取り上げます。

【新政とうかい・吉田充宏議員】 広域避難計画を早期に公表すべき → 計画(案)の公表に向けた準備に入る

Q. 10月18日に避難先である守谷市への避難訓練が終了したが、その評価は。
これで、3つの避難先への避難訓練が一巡したが、現状の避難計画(案)を正式な計画として公表するには、今後どのような手続きが必要か。

A. 訓練の評価については、現在、外部評価の取りまとめが行われているが、訓練参加者からのアンケート等を基に検証した自己評価について、その概要を取りまとめたところである。このなかで、「住民広報」や「原子力災害時の避難」についての理解に関する設問に対し、7割強の方が「理解できた」と回答しており、概ね理解が得られたと評価している。
今後の手続きについては、東海村原子力安全対策懇談会に説明し、その後、最終的には東海村防災会議で審議頂きたいと考えている。なお、広域避難計画については、議会や村民の皆さまへも、時期を捉えて説明したいと考えている。

広域避難計画を住民へ周知することが何よりも重要であることから、ようやく現状の計画(案)の公表に向けた準備に取り掛かる意向が示されました。



Q. 村長は守谷市との訓練の終了時に、「ひとつの区切り」と発言している。これまでの経過を踏まえると、今年度末には正式な広域避難計画として公表すべきではないか。

A. 避難先3つの市への訓練は一巡したことになるので、訓練を通して3市においても受入体制の確認などもできたようであるし、これまでの訓練の検証結果から見出したものを整理する時期にきている。
一方で、広域避難計画について、議会では早期策定に関する意見書の可決や、行政が実施しているタウンミーティングの参加者から「避難計画が未策定であることを知らなかった」「原子力災害時にどのような行動をとるべきか分からない」といった声があがっている。
こうしたことを踏まえ、時期は未定であるが、現状の避難計画(案)の公表に向けた準備に取り掛かっていきたい。

【会派活動】 新年度の予算に関する要望書を提出



日常活動をともにする会派「新政とうかい」のメンバー10名で、次年度予算および村政に関する要望書を山田村長に提出。
物価高騰対策として全世帯を対象とした事業の具現化や、子育て世帯に対する学校給食の負担軽減策の検討などを要望しました。